

ひまわりからの メッセージ

144号

2023.11.13.

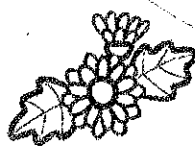
NPOひまわりの花内

西濃圏域

発達障がい支援センター

発行人：中野にみ子

庭の千草



秋が日に日に深まって、いつのまにか秋明菊は散り果てて小菊が咲きはじめました。「庭の千草」の歌詞のごとく虫の音は絶えてしまいました。今朝、少し空が明るんできると鳥たちの囀りが聞こえてきて、ああ、今日一日もがんばろうという気にさせてくれます。

私は、今日は書評を頼まれていた『雨の韻律』という歌集に目を通しました。岡本遙子さんという九州在住の方の歌集です。その中に心惹かれた作品がいくつもありました。

つましくも凜とあるべし

白梅を眺めし母の静かなるこゝろ

この方は、コロナ禍で入院中のご主人と会うことも叶わないまま見送られ、ご主人への惜別の歌も多々ありました。が次のような作品も見られました。

プーチンの核を厭はずと吐きし日の
書棚に潜む『この子を残して』

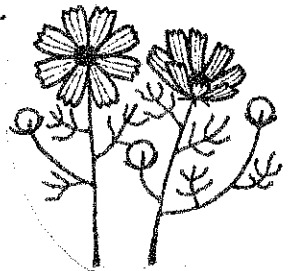
『この子を残して』は長崎で被爆された永井隆博士の著作で、映画にもなり、「長崎の鐘」という歌にもなりました。私の書棚にもあり、二人の子を残して旅立たねはならない父親の真情が綴られていました。ご自身は病床にありました。

ロシアのウクライナへの侵攻、イスラエルとパレスチナの戦闘など世界のあちこちで戦争がなくなることがありません。人類はいつまで戦争を続けていくのでしょうか。平和だと思っている我々日本人にと、遠い異国の出来事で、映像の中のような錯覚さえも抱いてしまいませんか。でも多くの人々の日常は奪われ、子ども達も死と隣り合わせに生きています。心痛む日々が続きます。戦争だけではありません。飢えに苦しむ子どもたち、病気になる方も薬もなく、ただ死を待っただけの子どもたち。そして、何も無い私たち。何もできない私たち。でも核が使われれば人類は滅亡に向かっていくのでしょうか。

岡本さんの歌集を読み終え、世界情勢のことなどを考えながら庭に出てみると、山茶花の鮮やかな白が目にとびこんできました。ああ、もう山茶花の季節なのか。時は流れていき、それでもひとときの安らぎを与えてくれることを倅せに感じたことでした。

「ことば」について

考えてみませんか？



最近、ことばについて考えさせられることが多くあります。子ども達の検査をしていると、語彙数の少ないや表現の幼さも気になりますし、言語的推理の弱さも気になります。もちろん、私が検査依頼を受ける子どもたちは、何らかの困りがあると考えられる子どもたちですから、当然と言えるのかもしれませんが、ことばがイメージを広げていく力は昔に比べて低くなっているように思います。

「もしもだったらどうするの？」

こういう質問をすると、何人かは「だって、そんなこと無いもん。分からない」と答えます。つまり経験してないことや状況を想像してみることが、まあ難しいということがあります。その場合、こちらの言っていることは「意味不明」ということです。こういう子どもたちにとっては長文理解は難しいでしょうし、算数の文章問題も苦手だと思われれます。もしもその子が視覚的なヒントがあれば理解できるのなら、図や絵で示してあげること助けになるかもしれません。

「先生の指示は守るべき」なのに……

授業中のこと、「おしゃべりしてはいけません」と言われたSさんは、黙って授業を受けていました。でも隣の子がうるさいのです。「しゃべってはいけない」と言われているのでSさんは口で注意をすることは出来ません。仕方がないので意を決して隣の子を叩きました。ところが、それを見とがめた先生に叱られることになってしまいました。この出来事は、その後ずつとSさんの心の傷となりました。

規則や先生の指示をしっかりと守ろうとする子と、頭に浮かんだことをすぐに口に出してしゃべってしまう子との軋轢は中学校や高校でも見られます。相方が悪いとは思っていないので、なかなか納得できないのです。声に出すことばを外言、声に出さない思考やことばを内言とか内言語とか言いますが、電車の中でも独り言を話している人を見かけることがあります。内言が難しいのだなあと思えばすむことですが、中学生や高校生には理解し難いでしょう。トランプに発展したり、指示を守ろうとする子がストレスをためてしまふこともあります。

具体的なことばの大切さ

私たちはことばの世界に生きています。しかも日本人の気

質として、あえてあいまいな表現をすることもありません。けれども、あいまいな言葉で困る場合もあります。登校しづりから不登校になってしまったKさんが、やっと保健室登校ができてきたようになった日のことです。「ちょっと待ってね」と退室された先生をKさんは不安になりながら、ひたすら待ちました。先生が戻られたのは三十分も経ってからです。結局、結局Kさんは次の日からまた休んでしまいました。「ちょっとではなく具体的な時間が知らされていればKさんの不安は少しは軽くなっていただろう。「見通しをもつ」ということは、とても大切なことですし、「具体的に」話すことも本当に必要なことなのです。」

大人の方との会話の中で……

私は、この仕事を長年やってきているのですが、時々思いもかけない相手の反応に驚かされることがあります。

こだわりの強いHさんと話していた時のことです。Hさんが「今日は何をしたのか」と聞かれるので、「小さい子をもつお母さんたちにお片づけの話をしました。片づけは、種類ごとに分けて片づけるものだから、小さい時からお母さんと一緒に片づけると良いねと話したよ」と言うと、突然Hさんは電話口で「何でそんなことを言ったんだ!!」と腹を立てて、暴れはじめた

のです。何かHさんの気に障ったのかわかりません。もう二十歳を過ぎていたHさんでしたが、片づけが上手にできずに注意を受けていたのかもしれない。

電話口でおろおろされているお母さんと、荒れ狂うHさんにもできずに電話を切りましたが、それ以来Hさんとは没交渉になってしまいました。

もう一人はAさんです。長い付き合いがあり、穏やかな人という印象なのですが、何でもないことでひどく落ち込むことがあるとのことで、常にことは選んで話すように心がけてきました。仕事に就いたことはなく、自分でも就労はできないと日頃から言っておられます。私も、就労イコール自立とは考えていないのでAさんの生活を見守り、話し相手になってきました。以前は「聞いてほしいことがあるので、何分もうえますか」とたずねていたAさんでしたが、最近では、朝晩関係なく電話がかかったり、メールが届いたりすることが多くなっていました。大丈夫かなあと心配していましたが、案の定、精神的に不安定になったと連絡が入りました。きっかけは私から見れば些細なことでしたが、声の調子も低くいかにも辛そうでした。とりあえず話を聞きながら、内容の整理をしてみきました。そして、その話の流れの中で「就労は無理ですよね？」とたずねられた私は、「今のAさんの状態では無

「理だと思おうよ」と言ってしまったのです。一時間程話している間に声も明るくなってきたので良かったと思ってる電話を切ったのですが、その後メールが来しました。「先生が就職は無理と言われたからパニックになってしまった」とのこと。果たして私は何と言えば良かったのか……？と悩みました。

この様に大人の方との会話には本当に心を配っているつもりでもこの様なことが起きてしまいます。Aさんの場合はまだAさんの心の動きを想像して、もっとことばを選ぶべきだったと反省できるのですがHさんの場合は全く予想できませんでした。それでも私のことばがHさんを傷つけたことはまちがいないのです。Hさんがどの様な育ち方をしてきたのか、今、どんなことで悩み苦しんでおられるのか、過去に受けた心の傷はどんなことが原因だったのか、もっと知っておくべきだったのでしょうか。

前述のSさんが小学校時代に受けたことばによる心の傷に二十年以上も苦しめられたことを知っている私にとっては「ことば」というものを私たちはもっと大切に考えていかなければいけないという思いは強いのです。そんな私でもこの様なことが起きてしまう現実、打ちのめされてしまうことでもあります。

さて、皆さんはどう思われましたか？親と子の間でも

先生と生徒の間でも、近所の方との間でも、多かれ少なかれ、ことばの誤解はつきものです。「言った」「言われた」「言っていない」という子ども間のトラブルも跡を絶ちません。相手の思いを想像してみることが苦手な子や、ことはから想像していくことが苦手な子、大人になっても会話の中の一部のことばだけに反応してしまう人など生き、難さのある場合、私たちはどんな配慮をしていけば良いのでしょうか。

ひとことと言葉で救われることもあれば、傷つくこともある。ことばって難しいですね。だからこそ、私たちはことばについて考えていく必要があるのではないのでしょうか。

今後の予定

- 12月6日 ピアサポート
- 11日 センター親の会
- 16日 家族会
- ※市町での成人相談
 - 4日 池田町
 - 5日 養老町
 - 11日 揖斐川町
 - 15日 輪之内町
 - 19日 大野町

- 1月15日 センター親の会
- ※2月曜が休日のため
- ※3月曜になります。
- 10日 ピアサポート
- 27日 家族会

